

閑談中国

Vol.1

ガンペイ 干杯! 乾杯!



沖縄県外国人外国語指導助手
沖縄県地域限定通訳案内士
浦添市役所限定通訳
放送大学大学院文化科学研究科修士選科生

謝 曉軍

数年前から、通訳として訪中団や来沖した団体と同行する中で、日本と中国の接待文化の違いに気付きました。いくつか感じたことをお話しします。

●「干杯!」「乾杯!」

8月の中国某南方都市は気温37度と沖縄よりも蒸し暑い。それ以上にホットなのは、昼夜を問わず繰り広げられる接待の乾杯だ。万国共通の乾杯だが、中国の「干杯」は文字通り杯を干すこと。完全に飲みきったことを示すために、相手に杯の底を見せたり、逆さにしたりする。そして、円卓を順番に回り、一人一人に挨拶を交わしながら乾杯する。宮古島の「お通り」と似ているらしい。

さあ、私に中国式の「お通り」が回って来た。中国名酒の「台茅酒」と51度のストレートだ。すでにワインをグラス一杯、「青島啤酒(青島ビール)」ジョッキ一杯の「干杯」が終わったばかりだ。周りに助けを求めようにも、みんな応戦に必死のようだ。白馬の王子の出現も期待できないまま、コップを口元に。強烈! 意を決して、一気に杯を飲み干した。喉がびりびり痛い!

中国での乾杯は、中国語の諺で言えば、「酒场如战场」。「酒場は戦場の如し」という意味。つまり真剣勝負のための戦術が隠されているのだ。中国ではお酒に強い人が評価される。飲みの場では、双方の必死の攻防戦が展開されていく。言葉巧みにお酒を勧める。酒豪を助っ人で連れてくる。etc。

ちなみに私は「以水代酒」という手を使う。酒の代わりに水を入れるのだ。コツは二つ。一つは酒の匂いが残っているコップを使うこと。もう一つは人の目を盗んで水を入れる早業だ。よくばれてしまうが、現在も私が活用する「戦術」である。

最後の逃げ道はやはり「三十六計, 走为上计(三十六計、逃げるに如かず)」。携帯電話に出るふり、トイレに行くふりをして、しばらくその場から姿を消す。

●「コーラを温めて!」

来沖の中国人客から「お湯を下さい」という注文がとても多い。朝食のホテル、昼食のそば屋さん、夕食の居酒屋、2次会のスナック、所構わず声が掛かる。「大変申し訳ございません、お湯はちょっと・・・」とウエートレスの言葉を伝えると、「じゃ、このミネラルウォーターを温めて」と持参のボトルを差し出す。中には、「このコーラを温めて!」と要望する客も。中国ではオレンジジュースも温めて飲むのが普通である。さらに隣の客が「そこに梅干しを一粒煮込んで、さらに若いショウガを3片ほど薄く切って入れてね」と注文を追加!? 風邪予防だという。これにはさすがに中国人の私もビックリした。

また、中国でビールを注文する時に「要冰镇的。(冷えている物を下さい。)」と一言を添えないと、生温かいビールが出てくることがある。逆に中国人客を招待した時は、確認した方が良い。中国人は基本的に冷たい物や生ものを口にしない。体内にあえて冷たいものを入れ体を冷やすことに抵抗があるのだ。日本では生卵を納豆、すき焼きなどにあわせているが、中国人客はそれを食べようとしない。サラダより野菜炒め、御浸しよりスープが好まれる。しかも出来立て、湯気の立っている状態でいただくのが一番。沖縄料理ではホットなてびちが中国人に人気のようだ。

中国では、真冬でも真夏でも、熱々なお茶やスープが登場する。特にスープは何種類も運ばれてくる。鳥やスッポンが丸ごと出てきたり、どれもこれも絶対に体のどこかに効くというお墨付きだ。そして、必ず「趁热吃!(熱いうちに飲んで!)」との一言を添える。目をつぶって全部飲み干すと、全身から汗が噴き出してくると同時に、腹の底から何とも言えない不思議なパワーが湧いてくるのだ。皆さんも是非お試しあれ!